

講演会 「後鳥羽上皇と水無瀬神宮」

令和元年6月1日（土）

水無瀬神宮宮司

水無瀬 忠成 氏



どうもみなさんこんにちは。水無瀬神宮の宮司をしております水無瀬と申します。今日は本当に忙しい中たくさんの方がこの麗天館にお集まりいただきましてありがとうございます。

水無瀬神宮というのは、皆さま方御存じの通りこの島本をこよなく愛された第82代後鳥羽天皇さんが、ここにお住いになられて離宮をつくられました。

後鳥羽天皇が天皇におつきになったころは、源頼朝が鎌倉に幕府を開き、頼朝が亡くなった後は子どもの頼家が専制をされまして、外戚の比企能員の勢力だったわけでございます。頼家が亡くなると、北条時政が頼家の弟の実朝を三代目の将軍に掲げますが、実朝も頼家の息子公暁に暗殺されるという政権争いがありました。その時に後鳥羽天皇は院宣をだして倒幕の計画を立てるわけですが、それを承久の変といいます。残念ながら上皇方は敗れ、後鳥羽天皇さんは隠岐の島に移され、その時に参画されました順徳天皇さんは佐渡へ、土御門天皇さんは土佐へとそれぞれ遠隔の地に移されました。しかも後鳥羽天皇さんは水無瀬に帰ることなくして、隠岐島でお隠れになつていたわけで、その時に付いておりました藤原能茂が御靈を水無瀬の地へ移して、御祀り申し上げたわけです。その後は現在までずっと御祀りしております。

今回は、国宝の「後鳥羽天皇像」と、「後鳥羽天皇宸翰御手印置文」の2点の複製が、便利堂さんによってできあがっております。「後鳥羽天皇像」を描かれましたのは、藤原信実という似絵師です。それともう一点、「後鳥羽天皇宸翰御手印置文」は、水無瀬信成、親成氏親子に対しての私が亡くなった後はずっと弔って御祀りするようにという遺言状のようなものです。ですから、800年前から今まで御祀りしてきた水無瀬家の先祖に敬意と感謝をしながら、後世にずっと続けていくという想いに改めて駆られます。

順徳天皇さんが佐渡に移られたときに詠んだ歌の中に「いかにして契りおきけむ白菊を都忘れと名づくるも憂し」というものがあります。これは自分がお住まいになっている行在所の近くに、後鳥羽天皇さんが大変好まれている白い野菊が咲いていて、これを都忘れと名付けたという歌です。この佐渡に咲いている菊を、水無瀬の地に移しまして、現在も境内には都忘れの菊が生えております。ですから今も月次祭の22日、これはちょうど天皇さんがお亡くなりになった日なんですが、その日には菊の花をお供えしています。

境内の建物では、茶室と客殿が重要文化財になっております。平成28年度には、本殿、拝殿、幣殿、神庫、手水舎、神門、築地塀、神宮の境内の建物が全て国の登録有形文化財に登録されました。水無瀬神宮に参拝されましたら、私いつでもおりますので何かありましたらご質問等たまわればと思います。ご清聴ありがとうございました。